

# 高校での特別支援 一緒に 考えませんか？



「高等学校特別支援チーム」がバックアップします

## 高等学校特別支援チームとは？

労働・福祉・教育の各機関で構成されたチームです。生徒の学習面、行動面、生活面に関することや、進路に関する事など、学校からの相談に応じています。令和7年度、県央地区では10校から22回の要請がありました。

障害の有無にかかわらず、気になる様子が見られる生徒への対応について特別支援の視点も取り入れて一緒に考えませんか？



## 生徒、先生の「困った」に寄り添います ～令和7年度 支援の実際～

### 〔ケース1〕 個別のケースへの支援



・ Aさん(1年)。読み書き困難。書字の難しさ、指示理解の難しさがあり授業で苦勞している。

- 1 授業参観とケース検討会
- 2 本人、保護者面談への協力
- 3 個別の教育支援計画作成支援

本人、保護者との面談も経て、書字の苦手さをカバーできるような支援について検討しました（記入欄の拡大、手書きから入力へ、課題量の調整等）。検討内容は個別の教育支援計画に盛り込み、各教科担任で共通理解を図りました。

### 〔ケース2〕 職員研修の支援

・ 生徒の実態の捉え方や必要な支援の考え方について研修し、職員間で共通理解を図りたい。

(実際の研修会の内容)

- 1 対象生徒に関する情報を確認。
- 2 行動の背景・要因を考え、付箋紙で出し合い、整理。
- 3 出し合った背景や要因を踏まえて、必要な配慮や対応、関わりについて整理。
- 4 各グループの協議内容を共有。

日常の指導・支援の見直しが図られた。教師間の共通理解が進み、その内容が個別の教育支援計画に反映されたことで、指導の継続にもつながった。

## 職員研修もお任せください！

学校のニーズに応じた研修の実施に協力します。内容に応じて教育関係以外の委員への依頼もできますので、御相談ください。



特性の理解に関すること、指導・支援に関すること

<キーワード> 特性、要因・背景、ユニバーサルデザイン、自己理解

〔研修タイトル例〕「つまずきのある生徒への支援とユニバーサルデザイン」



進路指導に関すること、就労支援に関すること

<キーワード> 就職活動、障害者手帳、自己理解

〔研修タイトル例〕「特別な支援が必要な生徒への進路指導について」

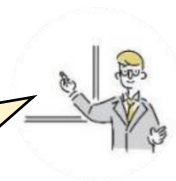


その他、障害種に応じた内容

〔研修タイトル例〕「中学校・高等学校でできる“聞こえ”と“話す”への支援」（聴覚障害）

## 支援チームを活用した学校の声

助言をもとに、生徒に関する情報や支援の状況などの共有を学年部で密に行うようになりました。小さな問題はありますが、生徒にだいぶ落ち着きが出てきました。



職員研修会で先生達と生徒の見方を確認することができ、視野が広がりました。先生達がそれぞれで指導の工夫をしていることも分かり、参考になりました。

助言を受けて作成した支援計画を基に教員間で支援の方向性を確認しました。生徒に学校生活上のルールや学校としてどんな配慮をしていくかを整理して伝えることにもつながりました。



## 申込み→支援までの流れ



① 事務局（教頭）へ御連絡ください。



② 派遣する機関、委員を事務局が決定します。



③ 高校、各機関で連絡を取り合い、支援内容や訪問期日等について確認します。



④ 支援スタート！